大西広先生への質問と返答

（6）　**大変興味深いお話をお聴きしました。とはいえ、私の周りの多くの人は、反中、嫌韓で固まっていて話を深めることが難しいです。一市民としてこういう人たちとの会話で、どのように対処していけばよいでしょうか。**

（返答）大局的なレベルの話を市民内部の立ち話程度の短い時間で話すことはできません。なので、そういう局面では、私は「隣国との友好のメリット」を説くこととしています。日本企業は大量に中国に進出し、かつ輸出先としても中国は日本にとって最も大事な国となりました。中国人観光客も日本の経済を下支えしています。そういうことは案外と大事なことです。

（7）　**マルクス主義はソビエト連邦と中国という大国を産み出しましたが、ソ連は消滅し、中国は社会主義の理想とはかけ離れて貧富の格差が拡大し、海外に個人資産を移す大金持ちが続出しているとのことです。これを思うと、美しい社会主義の理念は空論であって、それを達成することは人間の力を越えているのではないでしょうか？やはり自由主義以外にあり得ないように思うのですが、いかがでしょうか。**

（返答）私のマルクス経済学者としての最初の仕事は、崩壊した旧ソ連・東欧をどう理論的に捉えるかといったもので、それを資本主義の初期に一般的な国家主導の資本主義=「国家資本主義」としました。日本でもドイツでも 1945 年以前にはこのシステムがありましたね。実は、イギリスにもアメリカにも類似のものがありました。そして、理論的アプローチは異なっていても、今や日本のマルクス経済学の中ではこの立場がほぼ半数くらいに広まっています。
このものの考え方は、実はご質問の後半で述べられている「自由主義以外にありえない」との立場を補強するものでもあります。なぜなら、この考え方は、国家とは当初は巨大なものであるが、徐々に小さくなるのが歴史の法則だといっていることになるからです。国家はこうして巨大なものから少しずつ縮小し、最後は「無政府」になると私は考えています。ただ、これは民営化や規制緩和を長期法則としては容認するものなので、左翼勢力からは批判されましたが、それでもやはり、長期には国家は縮小するものだと私は考えています。

（8）　**アイヌの問題など、興味深いご講演でした。国境は帝国主義時代の遺物だと感じます。アイヌをはじめとして世界の多くの少数民族のことを考えて、国境をどのようにしていけばよいのでしょうか。あるいは未来において国というものをどう考えてゆけばよいでしょうか。**

（返答）アイヌ民族を含む「国境の民」の国境往来の権利を特別に認めることが最初の第一歩と思います。日本ではこの権利は保障されていませんが、中国雲南省やイヌイットなどいくつかの国にはすでに存在します。

ただ、これは「第一歩」にすぎません。アジアでもヨーロッパのように諸国家が連合⇒統一されることがもっともよいことでしょう。一歩一歩、そういう世界を作っていきたいものです。こうして諸国家の連合体の形成を少数民族の立場から見てみることも重要だと私は考えています。